



NEWS LETTER 第2号 (R3.10.8)

学び続ける教員へのメッセージシンポジウム開催のお知らせ

教職キャリア高度化センターでは、「学び続ける教員へのメッセージ」として例年講演会・シンポジウムを各1回ずつ実施しています。

今年度は、今年の1月に出された中教審答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」の趣旨を踏まえ、未来の義務教育と子どもたちの学びについて議論を深めたいと考えています。

11月20日(土)に開催する第1回シンポジウム(オンライン開催)では、小学校における「教科担任制」を取り上げます。本学の榊原禎宏先生、赤松大輔先生、そして本学前教授の初田幸隆先生をシンポジストに、ドイツの事例や心理学的、実践的な立場からの知見を織り交ぜ、教科担任制を切り口として、これからの授業づくり・学級づくりについて視聴者とともに考えます。

日 時：2021年11月20日(土) 10:00~12:00
オンラインのライブ配信にて実施(参加無料)

テーマ：これからの教育(令和の日本型学校教育)と
教師に求められる資質・能力
みらいの義務教育と子どもたちの学び
~教科担任制から考える「授業づくり・学級づくり」~

申し込み用GoogleフォームURLおよび二次元バーコードはこちら
→<https://forms.gle/tQ99hqcvA6hYquTY7>



詳細はセンターHPに掲載のチラシにてご確認ください



学生の就職支援について

教職キャリア高度化センター所属教員は教員採用試験に向けて日々励んでいる学生のサポートもしています。

6月から8月は採用試験直前期となり、それぞれの志望自治体の試験内容や試験時間に合わせて、個人面接練習、集団討論の練習、模擬授業の練習に皆さん一層力が入ります。私たちは現場での教育経験を生かしながら、学生のニーズに合わせて支援することを心がけています。なかでも、本番さながらの雰囲気味わえる直前セミナーは、学生の皆さんに人気のセミナーです。就職キャリア支援センターの客員教授、大学教員はもちろん、外部講師の方々にも協力いただくので、学生同士の練習だけでは経験できない緊張感を持つことができるからでしょう。一人でも多くの教職志望の皆さんが、教員採用試験を突破できるよう精一杯応援しています。



Web講義コンテンツについて

「アゲハ蝶の不思議を探る」小学校対象出張授業の解説（村上忠幸 教授）

先生を”究める”Web講義では、新コンテンツとして村上忠幸教授による「『アゲハ蝶の不思議を探る』小学校対象出張授業の解説」を公開しました。

この講義では、村上教授が小学校3年生を対象に長年行っている出前授業について、大学院生を児童に見立てて指導のポイント等の解説を行っています。アゲハ蝶への餌やりや産卵について、実際の映像を見ながら、それぞれのシーンで児童へどのような声かけをするか等を、具体的に学ぶことができる動画になっています。



↑実際に幼虫を見せながら解説する様子

小中の9年間をつなぐ（初田幸隆 前教授）

7月28日から、京都教育大学公式YouTube（kyokyochannel）において、特別講義「小中の9年間をつなぐ」を配信しています。

これは、本センターの現職教員を対象とした先生を”究める”Web講義のために制作した動画を、講師をされた初田前教授の了承のもと、本学学生や、Web講義に登録していない教育関係者に広くご視聴いただきたいので公開したものです。

内容は、小中一貫教育の経緯、義務教育学校の制度等の解説や、京都市内の学校・附属京都小中学校における実践事例、教科担任制に関する初田先生の研究成果等について7つのセクションに分けて解説しておりますので、もしよければご覧ください。



↑Section1の冒頭に各セクションについての内容説明があります。関心のあるセクションのみご覧いただくことも可能です。

今後も新コンテンツを作成していきますので、是非ご覧ください



京都府北部創生支援事業について

本年度の京都府北部創生支援事業は、中丹・丹後両教育局内の小学校5校、中学校1校、中学校区3ブロックが対象に指定され、本学の先生方のご協力のもと取り組んでいます。対面、オンライン、両方を組み合わせた研修等、状況に応じて形態を工夫しながら展開しているところです。併せてリージョナルリーダーの育成を目指して、メンターシップ育成研修も各学校で実施しています。引き続きお力添えいただきますよう、よろしく願いたします。

開催された研修等についての報告

京都市との連携事業について

8月6日に京都市教育委員会、京都理科研究会と協働して、理科指導力向上のための研修を実施し、17名の小学校教員に参加いただきました。今井健介准教授と藤浪理恵子准教授に講師をご担当いただき、コロナ対策のため二部形式の研修となりました。今井准教授の講義では、セミの抜け殻を顕微鏡下で自由に解剖・観察して口器、咽頭、内骨格等の内部構造を発見し、それらの教材化について考察しました。また、同准教授らが開発した3Dモデルを用いた生物観察支援システムの説明を受け、活用方法を考察しました。

一方藤浪准教授の講義では、本学の豊かな自然の観察と生態写真の撮影を行い、成果をデジタルマップにまとめ、全体共有する方法を実習しました。また、GIGAスクール構想による児童生徒のタブレット等端末活用を念頭に、理科指導への活用について議論しました。受講者からは「セミの知識など、子どもに伝えたいことがたくさんありました。」「ICTの活用や実技など、大変勉強になりました。」などの感想があり、好評を博しました。



↑研修の様子

左：藤浪理恵子准教授、右：今井健介准教授

デジタル教科書の勉強会について

8月2日にデジタル教科書研修会を行いました。時間は約90分、講師はデジタル教科書出版社4名の方々にご担当いただき、対象は初めてデジタル教科書を扱う教員で、参加者は現職教員（大学教員7名、大学院修学中の教員5名）を含む17名で行われました。内容は、教育のICT化の動き、デジタル教科書の特徴等の説明の後、実際に1人1台タブレットによるデジタル教科書の使用を体験していただきました。デジタル教科書そのものの存在は知っていても、使用することは初めての方がほとんどで、資料コンテンツなどが豊富に含まれること等、現存の教科書との違いを認識することができました。参加者からも有意義な機会であったという声をいただきました。



↑勉強会の様子

センター教員だより

今号から始まった本コーナーでは、教職キャリア高度化センター所属の教職員からのコラムを掲載します。最初の投稿者は教職キャリア高度化センター長の高柳真人教授です。

ぼくって なんて できてる

教職キャリア高度化センター長
高柳 真人

マザー・グース（谷川俊太郎訳）によれば、おとこのこは「かえるに かたつむりに こいぬのしっぽ」で、おんなのこは「おさとうと スパイスと すてきななにもかも」でできているらしい。小学校卒業の頃、ぼくはとんかつでできていた。小学校最後の給食のメニューがとんかつだったのだ。当時（今から50年以上も昔の話）、肉料理を食べる機会は今ほど多くはなく、例えば、小学校で、主菜として、茹でたキャベツ、ニンジン、もやし、ほうれん草などの細切りに酢醤油がかかっているだけのものが毎月出されて閉口したことを覚えている（ちなみにぼくの通っていた小学校は、当時は城南高校だった現都立六本木高校の斜め向かい、麻布十番商店街をお膝元に抱えた港区立の小学校だった・・）。出されたとんかつの肉は紙のように薄かった（とんかつの肉は薄くなくちゃいけないという御仁もいる）が、何より卒業を祝ってくれてのとんかつなんだろうなと嬉しく思ったことを覚えている。人のからだは日々更新され、もはやその時のからだではなくなっているだろうが、とんかつを出して下さった方々の思いは今でもしっかりと残っていて、「思いのリレー」を大切にしたいと思う今のぼくを作っている。

所属教員

センター長	高柳 真人
センター次長	市田 克利 樋口 とみ子
専任教員	富永 吉喜 中垣 ますみ 村岡 徹 梶山 直美 福間 拓
兼任教員	榊原 禎宏 植山 俊宏 村上 忠幸 小山 宏之 相澤 雅文

連絡先

ボランティアオフィス
（月～水・金 10:30～13:30、木 10:30～14:30）
スポーツ指導者養成オフィス
（月～金 10:00～13:00、14:00～15:00）
事務担当
（研究協力・附属学校支援課
研究協力・センター機構支援グループ）

